

助成番号：654

招へい目的：平成19年度国際大学交流セミナーにおける特別講義 及び分科会・全体会指導

外国人研究者名：申 海 植

国 籍：大韓民国

所属機関・職名：江原大学校・教授

外国人研究者招へい助成申請者：佐々木 市 夫（畜産科学科教授）

1. 目 的

本学が申請した平成19年度国際大学交流セミナーが採択された。相手先の大学は、本学との学術交流協定校である韓国・江原大学校である。このセミナーにおける特別講義及び分科会・全体会を指導して、セミナーの質的高揚を図ることを目的に、招へいしたものである。

2. 期 間

平成19年8月16日～平成19年8月25日

3. 場 所

帯広畜産大学

4. 内 容

1) 分科会・全体会の指導

申 海植教授は、本学の福島道広教授、本学参加学生6名、江原大学校学生3名とともに、「若者文化—流行語—」をテーマにした分科会Ⅲに参加し、分科会・全体会を指導した。分科会は、8月20日、21日、23日の3日間、全体会は、8月17日と8月24日の2回開催された。若者文化については、「コミュニケーション」、「教育」、「学校生活」及び「ファッション」の柱立てのもとで、両国間の共通点、相違点について議論を行った。



両国学生の活発な意見交換を通じて、参加学生の親交は深められた。また多くの学生には、異国の人の考えを相互に受け入れて、自分の固定観念を微調整する様子が見られた。このような交流機会は、日韓の若者にとって大変有意義であり、将来の両国の関係改善にも大いに貢献できた。

2) 特別講義

特別講義のテーマは「韓・米 FTA と韓牛産業」であった。韓・米 FTA は、2007年4月2日に締結された。韓・米 FTA の締結によって、米国産畜産物の輸入増加が予想され、韓国畜産への影響はどうか、その対策は如何にの問題意識のもとで丁寧に講義された。講義の構成は、①はじめに ②韓・米農畜産物の交易現況 ③韓国牛肉の需給 ④韓・米 FTA 影響 である。

韓・米 FTA が韓牛産業に与える影響は深刻である、早急に対応策を講じなければならないと述べた。具体的な対応策として、教授は次の8点を指摘した。すなわち、

- 第1. 韓牛肉の品質高級化及び安全性の強化
- 第2. 輸入牛肉の不正流通の防止及び韓牛肉の流通差別性の拡大
- 第3. 韓牛生産費の節減努力
- 第4. 飼料自給率の引き上げ及び飼料費の節減
- 第5. 家畜費の節減及び種畜の生産性向上
- 第6. 韓牛肉の消費促進の活動強化
- 第7. 韓牛肉の輸出のための調査研究の検討
- 第8. 所得及び所得補填直接支払制の導入検討



キーワード：若者文化、FTA、流通差別性